

平成 3 1 年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書



令和元年 1 1 月

千葉県総合教育センター

序

今年度も、関係者の皆様の御協力により、全国学力・学習状況調査を無事実施することができました。また、今回は、中学校英語「話すこと」調査が初めて試行され、その対応にも御尽力いただき、ありがとうございました。7月下旬、文部科学省の結果を踏まえ、本県は、「全ての教科において全国平均を下回っている状況である」、「中学校数学については、継続的に課題がみられる」といった総評を発表いたしました。各学校におかれましては、自校の結果をどのように受けとめられたでしょうか。

昨年11月、文部科学省は「Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト」の目標の一つとして、「語彙の理解、文章の構造的な把握、読解力、計算力や数学的な思考力など基盤的学力の定着を重視した新学習指導要領の確実な習得」を掲げ、今年度の全国学力・学習状況調査においても、それが反映された形で、出題方針の改訂がみられました。しかしながら、学校質問紙における調査結果の活用に関する項目において、本県の今年度の結果は、「小学校では、肯定的回答が全国を上回ったものの、中学校では昨年度を下回り、全国と比べても低い状況」と、依然として調査結果の活用が図られていない学校もあります。

この全国学力・学習状況調査は、学習指導要領で求められている力が児童生徒に身に付いているかどうか知ることができる調査です。したがって、調査の中で見出された課題をしっかりと分析することによって、児童生徒の根本的なつまずきがわかり、そこから教師の指導方法の弱点に立ち返ることができるのです。これこそがこの調査の真骨頂です。

そこで、まず、この報告書をご覧ください。今回の調査結果を詳細に分析し、児童生徒が今どのようなところで壁にぶつかっているのか、その全容を詳しく説明しております。また、併せて、分析ツールを使っただけならば、児童生徒一人一人の現状を掘り下げて理解することができ、授業改善に直接つながる具体的なアイデアやヒントも得られることと思います。

最後になりますが、各学校の学習指導における課題に改めて向き合い、児童生徒のつまずきの原因やその改善のための手立てを探るきっかけとして、この報告書を活用していただければ幸いです。これを大きな飛躍の第一歩としていただき、児童生徒の秘めたる力を引き出すための、授業改善、次年度の指導計画立案につなげていただけるものと信じております。

令和元年11月

千葉県総合教育センター所長 秋元 大輔